

日蓮大聖人御書全集 下巻 現代語訳

気軽に日蓮の御書を読んでみよう！
そして元気になろう！

北川 博通 訳

■日蓮大聖人御書全集（現代語訳ページ順）

御書（下）

No	ページ	題名	全体ページ	No	ページ	題名	全体ページ
				140-0002		常忍抄（稟権出界抄）	79
103-0006		善無畏三蔵抄	8	141-0002		始聞仏乘義	81
104-0001		佐渡御勘気抄	14	142-0001		可延定業書	83
105-0001		義浄房御書（己心仏界抄）	15	143-0001		富城殿御返事	84
106-0002		清澄寺大衆中	16	144-0002		四菩薩造立抄	85
107-0001		聖密房御書	18	145-0001		富木殿女房尼御前御書	87
108-0001		華果成就御書	19	146-0002		諸経と法華経と難易の事（難信難解法門）	88
109-0001		别当御房御返事	20	147-0002		富城入道殿御返事（弘安役事）	90
110-0001		寂日房御書	21	148-0003		治病大小権実違目（治病抄）	92
111-0002		新尼御前御返事	22	149-0001		金吾殿御返事（大師講御書）	95
112-0001		大尼御前御返事	24	150-0001		転重軽受法門	96
113-0010		種種御振舞御書	25	151-0003		大田殿許御書（天台真言勝劣事）	97
114-0003		光日房御書	35	152-0002		太田殿女房御返事（即身成仏抄）	100
115-0002		光日上人御返事	38	153-0003		太田入道殿御返事（業病能時事）	102
116-0001		光日尼御返事	40	154-0001		乘明聖人御返事（金珠女御書）	105
117-0003		四恩抄	41	155-0001		大田殿女房御返事（寒地獄事）	106
118-0007		法華経題目抄	44	156-0003		太田左衛門尉御返事（方便寿量肝心事）	107
119-0001		富木殿御消息	51	157-0001		大田殿女房御返事	110
120-0001		富木殿御返事	52	158-0001		慈覚大師事	111
121-0001		真間釈迦仏御供養逐状	53	159-0002		三大秘法稟承事（三大秘法抄）	112
122-0001		土木殿御返事（依智滞在御書）	54	160-0001		曾谷入道殿御書（真言違目）	114
123-0002		寺泊御書	55	161-0001		曾谷入道殿御返事	115
124-0001		富木入道殿御返事（願望仏国事）	57	162-0010		曾谷入道殿許御書（五綱抄）	116
125-0004		佐渡御書	58	163-0010		法蓮抄（父子成仏抄）	126
126-0001		富木殿御返事	62	164-0002		曾谷殿御返事（成仏用心抄）	136
127-0001		土木殿御返事	63	165-0002		曾谷入道殿御返事（如是我聞事）	138
128-0001		富木殿御書（同中御書）	64	166-0004		曾谷殿御返事（輪陀王御書）	140
129-0001		土木殿御返事	65	167-0003		曾谷二郎入道殿御返事	144
130-0002		法華行者逢難事	66	168-0001		秋元殿御返事（五節供御書）	147
131-0001		富木殿御返事	68	169-0005		秋元御書（筒御器抄）	148
132-0002		富木殿御書（止暇断眠御書）	69	170-0006		兄弟抄	153
133-0001		御衣並単衣御書	71	171-0001		兵衛志殿御返事（鎌足造仏事）	159
134-0001		観心本尊得意抄	72	172-0002		兵衛志殿御返事（三障四魔事）	160
135-0001		聖人知三世事	73	173-0001		兵衛志殿女房御書（儒童菩薩御書）	162
136-0001		富木尼御前御返事（弓箭御書）	74	174-0001		兵衛志殿御書（親父入信御書）	163
137-0002		忘持経事	75	175-0001		兵衛志殿女房御返事（銅器供養抄）	164
138-0001		富木殿御返事	77	176-0001		兵衛志殿御返事	165
139-0001		道場神守護事	78				

177-0001	兵衛志殿御返事(嚴冬深山御書)	166	215-0002	四条金吾殿御返事(源遠長流御書)	233
178-0001	孝子御書	167	216-0001	四条金吾殿御返事(所領書)	235
179-0001	兩人御中御書	168	217-0001	四条金吾殿御返事(石虎將軍御書)	236
180-0001	右衛門太夫殿御返事(斯人行世間事)	169	218-0002	日眼女造立釈迦仏供養事	237
181-0002	大夫志殿御返事(付法藏列記)	170	219-0002	聖人御難事	239
182-0001	兵衛志殿御返事	172	220-0001	四条金吾殿御返事(法華經兵法事)	241
183-0001	大夫志殿御返事	173	221-0001	四条金吾殿御返事	242
184-0002	八幡宮造営事	174	222-0002	四条金吾許御文(八幡抄)	243
185-0001	兵衛志殿女房御返事	176	223-0001	四条金吾殿御返事(八日御書)	245
186-0001	兵衛志殿御返事(兄弟同心御書)	177	224-0003	月水御書(方便寿量誦誦事)	246
187-0001	四条金吾女房御書(安樂産福子御書)	178	225-0002	大学三郎殿御書(樞実違目)	249
188-0001	月満御前御書(月満誕生御書)	179	226-0003	星名五郎太郎殿御返事	251
189-0002	四条金吾殿御書(孟蘭盆由来御書)	180	227-0001	大豆御書	254
190-0001	四条金吾殿御消息(竜口御書)	182	228-0001	寿量品得意抄	255
191-0001	同生同名御書	183	229-0001	五人土籠御書	256
192-0002	四条金吾殿御返事(煩惱即菩提御書)	184	230-0001	土籠御書	257
193-0003	四条金吾殿御返事(梵音声御書)	186	231-0003	日妙聖人御書	258
194-0001	経王御前御書(経王誕生御書)	189	232-0003	乙御前御消息(身軽法重抄)	261
195-0001	経王殿御返事	190	233-0001	乙御前母御書	264
196-0005	呵責謗法滅罪抄	191	234-0001	辦殿御消息	265
197-0001	主君耳入此法門免与同罪事(与同罪事)	196	235-0001	辦殿尼御前御書(大兵興起御書)	266
198-0002	四条金吾殿女房御返事(夫婦同心御書)	197	236-0001	辦殿御消息	267
199-0001	四条金吾殿御返事(此経難持御書)	199	237-0001	弥源太殿御返事(善惡二刀御書)	268
200-0002	王舎城事	200	238-0001	弥源太入道殿御返事(転子病御書)	269
201-0001	四条金吾殿御返事(法論心得御書)	202	239-0001	弥源太入道殿御消息(建長寺道隆事)	270
202-0002	瑞相御書	203	240-0001	さじき女房御返事(帷供養御書)	271
203-0001	四条金吾殿御返事(衆生所遊楽御書)	205	241-0001	棧敷女房御返事	272
204-0003	四条金吾釈迦仏供養事(釈迦仏開眼供養)	206	242-0003	善無畏抄	273
205-0001	四条金吾殿御返事(智人弘法抄)	209	243-0004	妙密上人御消息(法華経功德抄)	276
206-0002	四条金吾殿御返事(八風抄)	210	244-0001	道妙禪門御書(四種祈祷御書)	280
207-0007	頼基陳状	212	245-0002	日女御前御返事(御本尊相貌抄)	281
208-0002	四条金吾殿御返事(不可惜所領事)	219	246-0004	日女御前御返事(囑累品等大意)	283
209-0004	四条金吾殿御返事(世雄御書)	221	247-0001	出家功德御書	287
210-0001	四条金吾殿御返事	225	248-0002	妙一尼御前御消息(冬必為春事)	288
211-0003	崇峻天皇御書(三種財宝御書)	226	249-0001	妙一尼御前御返事(信心本義事)	290
212-0002	四条金吾御書(九思一言事)	229	250-0004	妙一女御返事(即身成仏法門)	291
213-0001	陰徳陽報御書	231	251-0002	妙一女御返事(事理成仏抄)	295
214-0001	中務左衛門尉殿御返事(二病抄)	232	252-0001	日嚴尼御前御返事	297

253-0001	王日女殿御返事	298	291-0001	国府入道殿御返事	355
254-0001	御輿振御書	299	292-0001	国府尼御前御書(佐渡給仕御書)	356
255-0005	法門申さるべき様の事(各宗教義事)	300	293-0004	一谷入道御書	357
256-0002	十章抄	305	294-0003	中興入道消息	361
257-0005	教行証御書	307	295-0001	是日尼御書	364
258-0001	諸人御返事	312	296-0001	遠藤左衛門尉御書	365
259-0001	小蒙古御書	313	297-0002	生死一大事血脈抄	366
260-0001	さだしげ殿御返事	314	298-0001	草木成仏口決	368
261-0001	霖雨御書	315	299-0003	最蓮房御返事(師弟契約御書)	369
262-0001	女性房御返事	316	300-0007	祈祷抄	372
263-0001	智妙房御返事(八幡天上由来)	317	301-0002	祈祷經送状	379
264-0001	十住毘婆娑論尋出御書	318	302-0003	諸法実相抄	381
265-0001	武蔵殿御消息	319	303-0005	十八円満抄	384
266-0004	破良観等御書	320	304-0001	六郎恒長御消息(念仏無間二義)	389
267-0001	檀越某御返事	324	305-0004	波木井三郎殿御返事	390
268-0001	法衣書	325	306-0001	南部六郎殿御書(国家謗法事)	394
269-0001	慧日天照御書	326	307-0001	地引御書	395
270-0001	釈迦御所領御書	327	308-0001	波木井殿御報(池上到着御報)	396
271-0001	大果報御書	328	309-0001	大井荘司入道御書(登竜門事)	397
272-0001	除病御書	329	310-0002	松野殿御消息(一劫御書)	398
273-0001	根露枝枯御書	330	311-0005	松野殿御返事(十四誹謗抄)	400
274-0001	南無御書	331	312-0001	松野殿御消息(宝海梵志事)	405
275-0001	題目功德御書	332	313-0001	松野殿御返事(三界無安御書)	406
276-0001	大悪大善御書	333	314-0001	松野殿御返事	407
277-0001	来臨曇華御書	334	315-0001	松野殿御返事	408
278-0001	常楽我浄御書	335	316-0002	松野殿後家尼御前御返事(盲亀浮木抄)	409
279-0001	帰伏正法御書	336	317-0001	松野殿女房御返事	411
280-0001	現世無間御書	337	318-0001	松野殿女房御返事(仏身懐胎抄)	412
281-0001	衣食御書	338	319-0001	松野尼御前御返事	413
282-0001	釈迦如来御書	339	320-0001	浄蔵浄眼御消息	414
283-0001	破信墮惡御書	340	321-0003	刑部左衛門尉女房御返事(孝養御書)	415
284-0001	阿仏房御書(宝塔御書)	341	322-0001	春麦御書	418
285-0002	妙法曼陀羅供養事	342	323-0001	妙法尼御前御返事(一句肝心事)	419
286-0002	阿仏房尼御前御返事(暇堅固御書)	344	324-0001	妙法尼御前御返事(臨終一大事)	420
287-0004	千日尼御前御返事(真实報恩經事)	346	325-0007	妙法比丘尼御返事(亡夫追悼御書)	421
288-0001	千日尼御前御返事(雷門鼓御書)	350	326-0001	妙法比丘尼御前御返事	428
289-0001	阿仏房御返事	351	327-0003	内房女房御返事(白馬白鳥御書)	429
290-0003	千日尼御返事(孝子財御書)	352	328-0001	治部房御返事	432

329-0002	孟蘭盆御書（治部房祖母への書）	433	367-0004	南条兵衛七郎殿御書（小松原法難抄）	486
330-0003	浄蓮房御書	435	368-0004	薬王品得意抄	490
331-0003	新池殿御消息（法華経随自意事）	438	369-0002	上野殿後家尼御返事（地獄即寂光御書）	494
332-0003	新池御書	441	370-0001	上野殿御返事（亡父追善御書）	496
333-0001	船守弥三郎許御書（伊豆配流事）	444	371-0002	上野殿御返事（土餅供養御書）	497
334-0001	同一鹹味御書	445	372-0001	春の祝御書	499
335-0001	椎地四郎殿御書（如渡得船御書）	446	373-0001	上野殿御返事（阿那律果報由来）	500
336-0002	弥三郎殿御返事	447	374-0001	上野殿御返事	501
337-0001	新田殿御書	449	375-0001	上野殿御書（祇園精舎御書）	502
338-0001	実相寺御書	450	376-0001	单衣抄	503
339-0001	石本日仲聖人御返事	451	377-0001	上野殿母尼御前御返事	504
340-0001	聖人等御返事	452	378-0007	神国王御書	505
341-0001	伯耆殿等御返事	453	379-0002	上野殿御消息（四徳四恩御書）	512
342-0001	高橋殿御返事	454	380-0001	南条殿御返事（現世果報御書）	514
343-0003	高橋入道殿御返事	455	381-0001	南条殿御返事	515
344-0001	異体同心事	458	382-0003	南条殿御返事（大橋太郎抄）	516
345-0001	六郎次郎殿御返事	459	383-0001	九郎太郎殿御返事	519
346-0002	滅劫御書（智慧亡国書）	460	384-0001	本尊供養御書	520
347-0001	高橋殿御返事（米穀御書）	462	385-0003	上野殿御返事（梵帝御計事）	521
348-0003	三三歳祈雨事	463	386-0001	南条殿御返事（白麦御書）	524
349-0001	蒙古使御書	466	387-0001	庵室修復書	525
350-0001	西山殿御返事（雪漆御書）	467	388-0001	大白牛車書	526
351-0001	宝軽法重事	468	389-0001	上野殿御返事（水火二信抄）	527
352-0001	西山殿御返事	469	390-0001	上野殿御返事（末法要法御書）	528
353-0001	西山殿御返事	470	391-0001	南条殿女房御返事	529
354-0001	妙心尼御前御返事（御本尊護持事）	471	392-0001	種種物御消息	530
355-0001	窪尼御前御返事（虚御教書事）	472	393-0001	時光御返事	531
356-0001	窪尼御前御返事	473	394-0001	上野殿御返事（塩一駄御書）	532
357-0001	妙心尼御前御返事（病之良薬御書）	474	395-0001	上野殿御返事（三災御書）	533
358-0001	窪尼御前御返事（孝養善根事）	475	396-0001	九郎太郎殿御返事（題目仏種御書）	534
359-0001	妙心尼御前御返事（相思樹御書）	476	397-0001	上野殿御返事（雪中供養御書）	535
360-0001	窪尼御前御返事	477	398-0002	上野殿御返事（刀杖難事）	536
361-0001	妙心尼御前御返事	478	399-0001	上野殿御返事（財御書）	538
362-0001	窪尼御前御返事（阿那律事）	479	400-0001	上野殿御返事（竜門御書）	539
363-0001	窪尼御前御返事（善根御書）	480	401-0001	上野殿御返事（適時弘法事）	540
364-0001	三沢御房御返事	481	402-0001	上野殿御返事（正月三日御書）	541
365-0003	三沢抄（佐前佐後抄）	482	403-0001	上野殿御返事（孝不孝御書）	542
366-0001	十字御書	485	404-0001	上野殿御返事（熱原外護事）	543

- 405-0001 上野殿御返事（日若御前誕生事） 544
 406-0001 南条殿御返事（五郎殿悲報事） 545
 407-0001 上野殿御書（大海一滴御書） 546
 408-0001 上野殿御書（弔慰御書） 547
 409-0003 上野殿母御前御返事（四十九日御書） 548
 410-0001 南条殿御返事（百箇日御書） 551
 411-0001 上野殿御返事（須達長者御書） 552
 412-0001 上野尼御前御返事（聖人御書） 553
 413-0001 上野殿御返事（法華經難信事） 554
 414-0001 南条殿御返事（法妙人貴事） 555
 415-0001 上野殿御返事（時国相応御書） 556
 416-0002 上野尼御前御返事（烏竜遺竜事） 557
 417-0001 上野殿母御前御返事（所勞書） 559
 418-0001 大白牛車御消息 560
 419-0001 春初御消息 561
 420-0001 法華証明抄 562
 421-0001 蕙三枚御書 563
 422-0001 芋一駄御書 564
 423-0001 閻浮提中御書 565
 424-0004 衆生身心御書（隨自意御書） 566
 425-0002 白米一俵御書 570
 426-0001 食物三徳御書 572
 427-0001 一定証伏御書 573
 428-0001 初穂御書 574
 429-0001 五大の許御書 575
 430-0001 一大事御書 576
 431-0001 ⑤身延相承書（総付囑書）（日蓮一期
 弘法付囑書） 577
 432-0001 ⑤池上相承書（別付囑書）（身延山付囑書） 578
 433-0005 富士一跡門徒存知の事 579
 434-0006 五人所破抄 584
 435-0002 日興遺誠置文 590

※ 036-0001 聖人御返事を追加している

⑤は五大部（十大部含む）、⑩は十大部
 ⑥は相伝書を顕わす
 （御書は創価学会版 S 27 による）

法華経は一代聖教の肝心であり、八万法蔵の依りどころである。仏法には大日経・華嚴経・般若経・解深密経等の、諸の顕経・密経の經典があり、それらの經典は、中国・インド・竜宮城・天上界にまで弘められ、十方世界の国土における諸仏が説いた教法はガンジス河の沙塵のように無数である。これらの、大海を硯(すずり)の水とし、三千大千世界の草木を筆としても書き尽し難いほど経々の中において、あるいはこれらの諸経を見、あるいはその内容を推考してみても、法華経は諸経の中で最第一の位置にあるのである。

法華経が一代聖教中で最第一であることを、インド等の宗派や日本の仏教界には、仏の本意を正しく知らない論師や人師が多くいて、ある者は大日経は法華経より勝れているといい、ある人々は法華経は大日経に劣るばかりでなく華嚴経にも及ばないといい、ある人々は法華経は涅槃経や般若経や深密経等よりも劣るといっている。またある人々はそれぞれの面で特色があり、互いに勝劣があるのだから視点を定めて経文の勝劣を判じなければならないという。そして、ある人は衆生の機根に随って勝劣があるのであり、時と機根に叶えば勝れた経であり、時機に叶わなければ劣る経であるという。ある人は有門の教説によって得道する機根であれば、空門を誇り有門を褒めて有門が勝れているとするのであり、その他のこともこのことをもって知るべきである等といっているのである。

その時代の人々のなかに、これらの法門を破折する人がいなかったならば、愚かな国王は深くこれらの法門を信奉されて田畠を寄進し、帰依する信徒も多くなった。

そしてそれらの法門が、時を経て古いものとなると、人々はそれらの法門がきっと正法なのだろうと思ってしまう疑うこともなくなって過ぎていくうちに末世となった。そのとき彼等が帰依した論師や人師よりも智慧の賢い人が出現して、彼等が持つ論師や人師の立義の一つ一つについて、あるいはその立義が依所とする経々と相違しているさまを責め、あるいはその立義が一代聖教の順序や浅深等を弁えていないため、もっぱら経文によってそれらの立義を責めたところ、彼等はおのおの宗派の元祖の邪義を助けることができないので、返答のしようがなく、ある者は疑って「論師や人師の説は必ず経論にその証拠の文があるのだろう。しかし、私の智慧が及ばないから助けることができない」といい、ある者は疑って「私の師は上古の賢哲(けんてつ:賢人と哲人)である。いまの私達は、末代の愚人である」等と思う故に、徳のある人や身分の高い人を味方にして、法華経の行者に対して、怨嫉だけをするのである。

しかしながら、私は自他への執着や偏(めたよ)りを投げ捨て、論師・人師の考えを閑(さしお)いて、もっぱら経文によってみるに、法華経は他の経より勝れて第一であると心得たのである。もし法華経より勝れている経があるという人が出てきたならば、つぎのように考えるべきである。この人は法華経によく似た経文を見誤っているのであろうか。また人が自分で勝手に経文をつくり、仏説にことをよせているのを、智慧の足りない者が、真偽を弁えずに仏説であるといっている等と思うべきである。たとえば慧能(えのう:禪の六祖)の壇経・善導の観念法門経・インド・中国・日本国に自分勝手に経を説いた邪師の数は多い。そのほか自分で経文を作り、経文に自分の言葉を加えるなどする人々がこれまた多い。

しかしながら、愚者はこれらを真実の経文であると思うのである。たとえば、天に日月よりまさる星があるなどといえ、盲人の人はそのとおりのかもしれないなどと思うようなものである。我が師は上古の賢哲であるが、あなたは末代の愚人ではないか等ということを、愚かな者はそのとおりであると思うのである。

この不審は今に始まったことではない。陳・隋の代に智顛(ちぎ)法師という小僧が一人いた。後には二代の天子の御師となり、天台智者大師といわれたのである。この人が初め身分の低かったころ、ただ中国の五百余年の三蔵や人師を破折しただけでなく、インド一千年間の論師をも破折したので、南北の智者等は雲の如く起り、東西の賢哲等は星の如く列なって、雨のように非難をあびせ、風のように智顛の義を破ろうとしたけれども終に智顛は論師・人師の偏頗な邪義を破して天台一宗の正義を立てたのである。

また日本の桓武天皇の御宇に最澄という小僧がいた。後には伝教大師といわれた人である。彼は欽明天皇以来の二百余年の間の諸の人師の立てた諸宗の邪義を破折したので、初めは諸人が怒りをなしたが、後には諸人一同に最澄の弟子となった。

この天台・伝教を非難した人々は「我等の元祖は四依の論師・上古の賢哲である。しかるに汝は像法の末の凡夫であり愚人ではないか」といった。しかし主張の邪正は正法・像法・末法という時代には依るべきで

はない。実経の文に依るべきである。人には依るべきではない。もっぱら道理に依るべきであろう。外道は仏を非難して「汝は成劫の末・住劫の始めの愚人である。我らの本師は先代の智者・二天・三仙である」などといったけれども、終に九十五種の外道といわれて捨てられたのであった。

日蓮が八宗を考察してみるに、法相宗・華嚴宗・三論宗等は権経に依経として、あるいは権経は実経と同じであるとしたり、あるいは実経を権経より低い教であるとして下している。これは論師・人師から誤ったものと思われる。俱舍宗・成実宗は子細があるうえ、律宗などは小乗教の中でも最も低い宗である。人師より論師が勝れ、権大乘経より実大乘経が勝っていたのであるから、真言宗とその依経である大日経等は、いまだ華嚴経等にも及ばない。まして涅槃経・法華経等に及ぶはずがないのである。ところが善無畏三蔵が華嚴経・法華経・大日経等の勝劣を判定した時、理同事勝の誤った解釈を作って以来、あるいは思い上がって「法華経は華嚴経にも劣るであろう。まして真言経に及ぶことがあろうか」、あるいは「法華経に印・真言のないということは争う余地もないことである」といい、あるいは「天台宗の祖師の多くも真言宗が勝れているといい、世間の人々も真言宗が勝れているであろうと思っている」という。日蓮はこの事を考えるにあたり、多くの人々が迷うことなので事細かに考えたのである。大略は他の書に記しておいたので見ておきなさい。また志のある人々は、存生の間によく習い伝えるべきである。

多くの人が思っているからといって、恐れてはいけぬ。また、その教義が立てられて年を経ているとか、新しいとかに依るべきでもない。ただ経文と道理とに依るべきである。

浄土宗は曇鸞(どんらん)・道綽(どうしゃく)・善導(ぜんどう)から誤りが多くて、多くの人々の邪見を入れてしまったのを、日本の法然はこの浄土宗を受け取って、人ごとに念仏を信じさせただけでなく、国中の諸宗を皆滅ぼそうとした。そこで、比叡山の三千の大衆や奈良の興福寺・東大寺などの八宗がこれを防いだので、代々の天皇は勅宣を下し、將軍家からは御教書を下して防いだけれど止められず、ますます繁昌して、かえって天皇・上皇・万民等にいたるまでみな信状するようになった。

ところが日蓮は安房の国・東条の片海(かたうみ)の磯に住む賤民(せんみん:身分の低い民、社会的に最下層に置かれて差別された人々)が子である。威徳もなく有徳の者でもない。奈良や叡山が防ぎ止めることができず、さらに天皇の威力によっても制止できない念仏を、どうして防ぐことができるだろうかとは思わなければならない。経文を龜鏡と定め、天台・伝教の指南を手にして建長五年から今年・文永七年に至るまで十七年の間、念仏を責めたので、日本国の念仏はだいたい防ぎ止め終わった。このことは眼前に見えるところである。また口には念仏を捨てていない人はあっても心の中では念仏は生死を離れる道ではなかったのだと思っている。

禪宗もこれと同じである。一事をもって万事を知りなさい。真言衆等の諸宗の誤りを制止することさえ思うがままである。まして当世の高僧や真言師等は、その智慧は牛馬にも劣り、螢火の光にも及ばない。まさに死者の手に弓箭(きゅうせん:弓と矢)を結びつけ、寝言をいう者にたずねるようなもので、実に憐(はかな)いことである。手に印(しるし)を結び、口に真言を唱えてはいるけれども、その心中には義理を弁えていない。そればかりか、慢心は山のように高く、欲望の心は海よりも深い。これは、皆、自らが経論の勝劣に迷うことから起り、祖師の誤りを正さないことから起きるのである。

結局、智者は八万法蔵をも習うべきであり、十二部経をも学ぶべきである。しかし末代濁悪世の愚人は念仏等の難行道・易行道等の義を抛(なげう)って、ただひたすらに法華経の題目を南無妙法蓮華経と唱えるべきである。太陽が東方の空に昇ったならば、南縁浮提の空は皆明るくなる。太陽は大光を備えているからである。螢火は一国土でさえ照らすことはできない。また、宝珠を懐中(かみちゆう)に持っていれば、どんなものでも降らすことができるが、瓦や石は財宝を降らすことはできない。念仏等は、法華経の題目に比べれば、瓦石と宝珠、螢火と日光のようなものである。

我等のような昧(くら)い眼の者が螢火の光によって物の色を弁えることができようか。いずれにしても、凡夫の成仏が叶いたい教法は、念仏・真言等の小乗教・権教である。

また、我が師・釈迦如来は、一代聖教・八万法蔵を説かれた仏である。この娑婆世界の仏のいない世に、最初に出現されて一切衆生の眼目を開かれた御仏なのである。東西十方の諸仏・菩薩も皆この仏が教えられたのである。たとえば、三皇五帝以前は、人間は父を知らない畜生のようなものであった。堯王(ぎょうおう:中国神話に登場する君主)以前には、四季を弁えず、愚かな牛馬と同じであった。同様に、仏がこの世に出現されなかったときには、比丘・比丘尼の二衆はなく、ただ男女の区別があるだけであった。今、比丘・比丘尼の真言師等が大日如来を御本尊と定めて釈迦如来を下し、念仏者等が阿弥陀仏のみを一向に持って釈迦如来を抛(な

げらっ)ているが、その者も教主釈尊の比丘・比丘尼である。にもかかわらず、本師に背くのは、各宗派の元祖の誤りを伝えてきたからであろう。

この釈迦如来は三つの理由があって他仏に代わって娑婆世界の一切衆生の有縁の仏となられたのである。

第一には、この娑婆世界の一切衆生の世尊であられる。阿弥陀仏はこの国の大王ではない。釈迦仏は、たとえば我が国の主上のようなものである。まずこの国の大王を敬って後に他国の王を敬うべきである。天照太神・正八幡宮等は我が国の本主であるが、釈迦仏が迹化の後、神と顕れたのである。この神にそむく人はこの国の主となることはできない。それゆえに、朝廷では、天照太神を鏡に写し祭って、そこを内侍所と称し、また八幡大菩薩へ勅使を遣して神の託宣を受けられたのである。大覚世尊は我等が尊主である。まず御本尊と定むべきである。

第二には、釈迦如来は娑婆世界の一切衆生の父母である。まず我が父母を孝行し、後に他人の父母に孝を及ぼすべきである。例えば周の武王は、父の形を木像に刻んで車にのせて戦の大將と定め、天の感応を受けて殷の紂王を討った。舜王は父が盲目となったことを歎いて涙を流し、手をもって父の目を拭ったところ、もとのように眼が開いたという。この仏もまたこのように我等衆生の眼を「開仏知見」と開かれた。いまだかつて他仏が開かれたことはない。

第三には、この仏は娑婆世界の一切衆生の本師である。この仏は賢劫第九の減・人寿百歳の時・中天竺に淨飯大王の御子として誕生、十九歳で出家し三十で成道し、以後五十余年の間、一代聖教を説いて八十歳で入滅された。そして舍利を留めて一切衆生を正像末の三時にわたって救われた。阿弥陀如来・薬師仏・大日如来等は他土の仏であってこの世界の世尊ではないのである。

この娑婆世界は十方世界の中の最下の場所であり、たとえばこの国土の中の獄門のような所である。十方世界の中の十悪・五逆・誹謗正法の重罪・逆罪を犯した者を諸仏如来がおのおの世界から追い出されたのを、釈迦如来がこの土に集められたのである。三悪ならびに無間大城に墮ちて罪の償いを終え、人界・天上界に生まれただけでも、その罪の余残があってややもすれば正法を謗じたり、智者を罵(のの)しつたりして罪をつくりやすい。たとえば身子は阿羅漢であるけれども瞋恚の気色があり、畢陵は見思惑を断じたけれども慢心の様子が見え、難陀は淫欲を断じてでも女人と交わる心があった。これらの声聞ですら煩惱を断じたといってもその余残がある。ましてや凡夫においては猶更のことである。それ故、釈迦如来はその御名をば能忍と名づけてこの土に出現されたわけであるが、それは一切衆生の誹謗の罪を咎(とが)めず、よく忍ばれる故である。これらの秘術は他の仏には欠けているところである。

阿弥陀仏等の諸仏世尊は悲願を起こされて、心中では恥ずかしく思われたのであろうか。還ってこの娑婆世界に通い、四十八願や十二大願などを起こされたのであろう。観世音菩薩等の他土の菩薩もまた同様である。仏には常平等の時は一切諸仏には差別がないけれども、常差別の時はおのおの仏が十方世界に自分の国土を定めて有縁・無縁を分けられたのである。大通智勝仏の十六人の王子は十方世界におのおのが国土を定めてそれぞれ自分の弟子を救われるのである。その中で釈迦如来はこの土にあたったのである。我等衆生もまた生を娑婆世界に受けた。なんとしても釈迦如来の教化から離れるべきではないのである。ところが、人は皆、このことを知らない。委(くわ)く尋ねて明らかにすれば、法華経譬喻品第三に「唯我れ一人だけが能く衆生を救い護る」とあるように、我等衆生は釈迦如来の御手を離れるべきではないのである。そうであるから、この土の一切衆生は、生死の苦を嫌い、御本尊を崇めようと思うならば、必ずまず釈尊を木画の像に顕してこれを御本尊と定め、その後、力があるならば阿弥陀仏等の他仏にも及ぶべきである。

それなのに、今の世、聖行のないこの土の人々が仏像を造り画くのに、まず他仏を先にしているのは、その仏の御本意にも、また釈迦如来の御本意にも叶はずがないうえ、世間の礼儀にも外れている。それ故、優填(うでん)大王(橋賞弥国の王、釈迦在世中の仏教を保護した王)の赤梅檀(しゃくせんたん:香木)の木を刻んだのは釈迦如来の像であり他仏の像ではなかった。千塔王の画像も釈迦如来であった。

それなのに諸大乘経に依る人々は、自分の所依の経々が諸経に勝れていると思う故に、教主釈尊を二の次にするのである。一切の真言師は大日経は諸経に勝れていると思う故に、大日経が究極の仏として説く大日如来を我等の有縁の仏と思い、念仏者等は観無量寿経等を信ずる故に阿弥陀仏を娑婆有縁の仏と思うのである。

当世はとりわけ善導・法然などの邪義を正義と違って浄土の三部経を指南とする故に、十の寺を造れば八・九の寺は阿弥陀仏を本尊とする。在家・出家を問わず、一家・十家・百家・千家にいたるまで持仏堂の